

平成 30 年度 河南町総合戦略推進会議 議事要旨

踏襲

日 時 平成 31 年 3 月 27 日 (水) 14 時～

場 所 河南町役場 3 階 301・302 会議室

出席者 委員：12 名／欠席委員 11 名、事務局 3 名、傍聴人 1 名

1. 開会

事務局

- ・平成 30 年度河南町総合戦略推進会議を開催します。
- ・委員定数 22 名のうち、過半数の 12 名の参加で会議成立の報告。また「河南町審議会等の傍聴に関する要領」により 1 名の傍聴を許可。

2. 町長あいさつ

武田町長

- ・本日は、公私ともに大変お忙しい中、河南町総合戦略推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。
国では、まち・ひと・しごと創生総合戦略の次期計画の策定に着手するとしているため、本町におきましても次期総合戦略の策定について検討しなければなりません。つきましては、皆さまの貴重なご意見をいただきながら、策定に努めてまいりたく存じますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
平成 30 年も東京圏への人口流出が止まらず、本町では、平成 28 年、29 年と 2 年連続で転入者が上回りましたが、30 年度においては転出者が上回り、3 年連続での転入超過は叶いませんでした。
第 2 子以降の保育料無料化や三世代同居・近居支援事業など、総合戦略の取組が効果をあげつつも、道半ばと感じております。
皆さまの貴重なご意見を頂戴し、より一層、地方創生を推進してまいりたいと考えておりますので、本日もどうぞよろしくお願い申し上げ、開会のあいさつとさせていただきます。

3. 新委員の紹介、委嘱状の交付

- ・新委員の紹介、町長より委嘱状の交付。
(町長退出)

4. 案件

(1) 副会長の選出

柿沼会長

- ・具体的な案件に移ります前に、本推進会議の副会長を務めていただいております

した区長会の榎野委員から山中委員に交代になりましたことにともない、副会長が不在となっておりますので、副会長の選出を行いたいと思います。皆さま互選により、副会長を選出する必要がございますがいかがいたしましょうか。

委員

・榎野委員の後任にあたる山中委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょう。
(異議なしの声あり)

柿沼会長

・異議なしとの声をいただきましたので、副会長は山中委員にお願いしたいと思います。

山中副会長

・就任のご挨拶

(2) 地方創生関連事業の取り組み状況について

事務局

・資料1を用いて説明

柿沼会長

・説明が終わりました。ご質問はございませんか。

委員

・道の駅かなんの売上について、本当に儲かっているのかどうかというのが、どうでしょう。売上げの数字だけ見ても、利益が出ているかどうか。

事務局

・売上げの数字を目標として掲げておりますので、利益の部分については、経費等差しいてという形になると思われませんが、手元に資料がありません。

柿沼会長

・そのような視点も必要であるとのこと。

委員

・儲けるという意味では、野菜だけ売って、ほんとにその儲かるかどうか懸念がある。建物を建てたとしても、それがどれくらい影響して儲かっているのかというのが、数字で出ない限りは、あんまり意味が無いと思います。

委員

・建物自体は河南町が建てているので、運営している法人が償却しているという訳ではない。したがって、そこを数値化するのは難しいかと思います。もともとの道の駅かなんの運営スタートの考え方というのと、地域農業の活性化と農家さんの所得向上が目的でスタートしているので、極力農家さんに利益が上がるように、あまり大きな上積みはしないというのが、もともとのスタンスでやっているのですが、建物の償却までとなると絶対に赤字になると思います。

柿沼会長

・ありがとうございます。よく分かりました。民間じゃできないことを公営でや

っているということが分かりました。

委員

- ・建物は町が建てて、建物の償却はどうするという疑問などところはありますが、意見として述べておきます。

柿沼会長

- ・K P I の②道の駅かなんの利用者数は、売店にきたお客様ということでしょうか。

委員

- ・レジを通過された方の人数としている。

委員

- ・人数も大切であるが、どのように使われているかが大切。それによってはもっと人数が増える可能性があるかどうか。

委員

- ・直売所なので、使うというよりはどれだけ来てもらえるようにするかといいところが大切と考えている。

委員

- ・この地方創生関連事業の課題としまして、登録されている農業従事者の方の、近年の増減はいかがな状況でしょうか。

委員

- ・道の駅かなんで登録されている方の人数について、ここ数年の増減はあんまり変わっていない。120名ぐらいの登録でずっと推移している。

(3) 平成29年度の重要業績評価指数（K P I）について

事務局

- ・資料2の説明

柿沼会長

- ・22ページのカナちゃんバス、コミュニティバスこれが、利用者が増えているのは結構なことですが、ルート等、利用者から要望などがあるのでしょうか。

事務局

- ・運賃改定として200円を100円に改めた。

柿沼会長

- ・ルートを変えてくれとか、ダイヤを変えてくれとかはないですか。

森田委員

- ・カナちゃんバスの運賃は100円で最初からずっとやっており、やまなみタクシーを最初200円で実施していたところ100円に改めた。カナちゃんバスは最初から100円でスタートしています。初年度と2年度はコースを変更した。初年度1年間と2年目は南ルートのコースについて週4回を週7回にし、寛弘寺とか神山に行くのを減らした。時間については、朝1時間早くして夜の

1時間を少なくした。また、朝1便増やし、夜1便少なく。そのような体制とバス停を作るなど、様々な案内をした関係で利用者が増えていると考えています。

それと、最初は浸透してなかったが徐々にバスが走っていると分かってきたのもあると考えている。ただ、単純に利用者が増えていることについての分析までは、いたってないため実証運行から本格運行にしましたが、まだまだこれから改善の余地はあると考えています。

柿沼会長

・まだまだこれから数字は伸びそうですね。

森田委員

・伸びればいいのですが。

柿沼会長

・何台ぐらい走っているのですか。

森田委員

・2台で1時間に1本です。北は大宝、東山へ行く1本と、南はさくら坂と白木を走っています。1回廻ってくると、北で約40分ちょっと、南は45分から50分くらい。交通事情によって若干違うのですが、最低そのくらいで帰ってきますので1時間に1本走ることができます。

委員

・34番のふるさと納税による地域経済貢献額が徐々に減少しているのですが何か原因はあるのでしょうか。

事務局

・ふるさと納税の寄附額につきまして、数字2つ目の部分が27年度ですが、そこから寄附額が毎年約200万円下がってきております。この地域貢献額というのは、27年度の時点では、寄附額の4割相当分をお礼品としており総務省からの通知により、3割相当分に減額したため、その部分でも下がっている。

森田委員

・そもそも貢献額は、何を数字で表しているのか詳細な説明が必要。

寄付者からの寄附額に応じて、ふるさと産品を町が地場産品を買ってお礼品として返礼している。それにより地域経済が活性化するので、そのための額がここに入っているということです。したがって、ふるさと納税額が別にございます。ちなみにふるさと納税額は、27年度が2,000万円くらい、28年度が1,800万円くらいで、29年度が1,600万円くらいと、少しずつ落ちてきている。最近総務省が規制強化をはじめているため、全国市町村が横並びになりますが、そのなかで何かをだすことによって納税額を増やすということを、次のステップとして考えていきます。

柿沼会長

・わかりました。

委員

- ・国からの交付税が減らされたりして、トータルとしてはどうなんですかね。泉佐野が減らされたわけでしょ。だからそんなにその極端に増やすということ自体も、あんまり意味がないように気がしますが、いかがでしょう。

森田委員

- ・ふるさと納税していただいた方の気持ちとして、自治体の応援やどんな事業に活用して欲しいとか、気持ちを反映することができる利点がある。また、返礼品をだすことによって、地域経済が活性化しますので良い循環があるのではないかと考えています。ただ、ご意見のとおり入ったお金、出て行ったお金、交付税を引かれたとかいろいろ計算していくと、多分マイナスになると思います。

柿沼会長

- ・地域に魅力的なものがあり、お返しできたら一番いいですね。

委員

- ・大阪府内の産物であれば認める動きもある。

森田委員

- ・政府の方からそのような意見がでていまして、最終的には6月に正式な方法が決まる。現在、国会の方で審議されていると思います。

委員

- ・33ページのフェイスブックの開設であうが、開設されてないということでしょうか、開設の予定はあるのでしょうか。

事務局

- ・フェイスブックの「いいね」の件数を目標として掲げているのですが、現時点ではまだ開設はできておりません。

記載にあるように双方向性のある広報広聴活動というのがあります。他の自治体の事例を見ますと、双方向で実施しているところもありますし、発信だけをしているところもあって、双方向となると職員の手が取られるとかというような課題が見えてきまして、今現在開設には至れていないというのが現状でございます。

委員

- ・個人と行政ではちがいがあると思います。双方向というのが支障となるのでしょうか。

事務局

- ・フェイスブックとかSNSはコメントが入ったらコメントを返すというのが、個人ではよくあると思うのですが、実際やっておられる自治体もあるが、その手法がどこまでの範囲で、どういった精度の範囲で行うかについて整理ができず立ち上げには至っていないということです。

委員

- ・個人的には別にコメントは入らなくてもいいとは思いますが。あくまでも行政からの発信のみの形でもいいと思います。コメントが来るような形にしてしまえば返さないことが怠慢ということになってくると思いますので。

事務局

- ・いろんな書き込みがあると思いますので、それにすべて返信するようになってくるとしんどくなる。

委員

- ・書き込みをしない形にするのはどうでしょうか。出来るかどうかわからないですけど、あくまで発信のみという形で。

委員

- ・発信のみで開設したとしても、一般利用者としてはなぜ河南町だけ返信してくれないのかというような部分で、違うルートでご意見をいただければよい。行政の方も大変になる中で、ルールづくりにいたっていない状態で、時期尚早な気がします。

柿沼会長

- ・K P I の数字は目標だと思いますが、この目標自体を今後少し検討された方がいいのかもしれませんが。

委員

- ・すべて出来るということではないでしょうから、出来ないものは出来ない。

柿沼会長

- ・すべてこの目標通りに進められることはないと思います。

委員

- ・道の駅ではフェイスブックとかされていますか。

委員

- ・フェイスブック、インスタグラム、ツイッターの3つとラインをやっています。コメントがそんなに多くは返ってこず、「いいね」を押すだけで終わりというような方が相対的に多いです。

柿沼会長

- ・行政でなくても河南町内の個別施設等でお持ちであればそれでいいかもしれませんよ。町になるとオフィシャルになるから変なことは返せないからね。難しいですね。

委員

- ・さきほど説明のあった転出者の若者層、子どもがまだいない世代の転出をいかに防ぐかという部分でいうと、情報をいかに発信していくかというツールとしては必要だと思います。いろんな政策を実施していますが、それを知るすべとしてSNSを使っていくというのは、それがフェイスブックになるのかツイッターになるのかについてはいろいろあると思います。全然知らない人は、町から

転出してから知るといふことが起こると思ひます。

委員

・27ページ。看板とか、河南町ホームページ観光ガイド閲覧件数で、27年がグッと多いのですがこのとき何か発見されたとか、イベントがあったとか、話題になったことがあるのでしょうか。

委員

・スマホが普及し始めたのが3年ぐらい前。

委員

・これは観光ガイドなので、ホームページの閲覧件数では。トップページではないですね。

委員

・はっきりしたものがわかるのであれば、仕掛けたらいいかもしれないですね。

(4) 平成30年度及び31年度の地方創生の取り組みについて

事務局

・資料3説明

柿沼会長

・はい、ありがとうございました。なかなか盛りだくさんですけれども、何かご質問等ございましたら。

山中副会長

・1ページの中村こども園という名称は、正式に決まっているのでしょうか。

事務局

・3月議会で関係条例の議決をいただきまして、正式に中村こども園と決定いたしました。

山中副会長

・そしたら、中村小学校が無くなって、それが中村こども園に変わるということでいいのですね。

事務局

・そうです。32年4月の開園でございます。

山中副会長

・2ページ、30年度に実施した近つ飛鳥小学校のトイレの改修が載っていない。トイレ改修によってウォシュレットの設備を小学校に設置することを発信したら、子育て世帯の方にアピール出来ると思ひます。

委員

・私もいろんな小学校に行きますが、子どものトイレにウォシュレットっていうのはなかなかないので価値があると思ひます。

山中副会長

- ・この実績に載せて欲しいと思います。
3 ページの30年度で実施の住宅支援機構との連携、どこでアピールされているのですか。良い取り組みなので積極的に発信をお願いしたいです。金利軽減となれば、住宅会社や建売業者に対しても情報発信が大切だと思います。

森田委員

- ・新聞の1面広告で取り組みを認知した。当時は大阪府内で7、8団体だけであったが河南町がなかったのを調査すると、河南町でも実施できる取り組みであることがわかったので連携の取り組みを始めたという経緯があります。
今年の新聞の1面広告にも出ていたと思います。

山中副会長

- ・我々見るのはホームページなので、ホームページでも情報発信していただきたい。

森田委員

- ・金融機関にお金を借りにいったら、フラット35という住宅ローンの商品がある。35というのとは35年間で返すという意味ですが、その商品が対象になります。金融機関で河南町での実施事業を説明されるはずですが。

山中副会長

- ・4ページの30年度で道の駅のトイレ棟の改築ですが、31年度で東側の周辺整備は実施しないのか。

森田委員

- ・調整が必要なもので、現時点では記載は難しい。

柿沼会長

- ・道の駅はよくなっている。ただ、お金がついてこないといけない。

森田委員

- ・現在は整地が完了し、荒造成までは30年度で完了予定。次はどのようなものを建築し、どのような機能をもたせるのかを検討中である。また、民間資金の活用について国、府とも検討中であり、企業が参入できるかどうかというサウンディング調査も実施しているところ。

山中副会長

- ・関連してイチゴプロジェクトについて、河南西部土地改良区で動いているので、予算の有無にかかわらずに事業計上するという方法もあると思う。町長の方針や担当各課の考え方もあると思うが、事業計上することで前向きに進んでいくことも考慮してほしいところ。

委員

- ・先ほど10ページのNHKラジオ体操の招致ということですが、NHK夏期巡回ラジオ体操として夏休みの期間中（43日間）北海道から沖縄までで開催され、今年は大阪では唯一河南町だけで行われ、ラジオ体操の後、河南町体育協

会発足50周年記念イベントを行う予定です。体育協会では加盟のスポーツ団体が河南町の施設で近畿大会、全国大会を開催するケースも増えてきてますが、河南町では食事をするレストランや宿泊施設がないため、町外や府外からの選手を滞在させることが難しい。今後スポーツ選手や観光客を誘致するため河南町だけでできなければ、太子町や千早赤阪村と共同で取り組むことや、近鉄などの大手とタイアップして人を呼び込む仕組みを検討し、計画していただきたい。

柿沼会長

- ・河南町には宿泊施設がまったく無いんですか。

委員

- ・無いです。NHKの人もかんぼに泊まって、早朝に河南町にきます。宿泊所があれば、PRなりお金を落としてもらったりしてもらうことができるんじゃないかと思います。

柿沼会長

- ・ご意見ありがとうございます。今日の次第の5番になりますが、その他とありまして、その案件として事務局の方からありますか。今後のスケジュールも含めて願います。

事務局

- ・案件その他で、2点ほどございます。1点目としまして、老人クラブ連合会から松井会長さまが本日は欠席されていますが、地方創生の取り組みについて、お願いということで、紙面1枚をお預かりしていますのでここでご紹介させていただきます。人口増に取り組むにあたって、高齢者の政策にも目を向けていただきたいというご意見を頂戴しております。

続きまして、スケジュールについてご説明させていただきます。皆様の任期につきましては、平成31年の8月6日までとなっておりますが、この河南町まちづくり戦略につきましては、5ヶ年の計画となっており、平成31年度がいよいよ最終年度でございます。冒頭で武田町長が申し上げましたとおり、本町のまちづくり戦略につきましても、次の5年の次期戦略の策定に向けたアプローチをかけていかなければなりません。したがって、今回の会議開催につきましては、これまでのような、年度末に1回の開催ということではなく、皆様の任期となる8月6日までに会議を1回開催させていただき、次期まちづくり戦略策定に向けた方向性をご審議していただき、意見をいただきたいと思っておりますので、引き続きご協力をいただきたいと思っております。また、委員の皆様におかれましては、計画期間満了の平成31年度終了まで、また引き続き出来れば委員をお願いしたいと思っております。これにつきましては、正副会長と相談の上、別途各委員の皆様個別にご依頼をさせていただきたいと考えておりますので、なにとぞよろしくお願いいいたします。次回は本年31年度の7月ごろ開催したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いい

たします。以上でございます。

柿沼会長

- ・ありがとうございました。当初からの委員の方は記憶にあると思いますが、当初平成27年度はたしか5回お集まりいただいたと思いますが、その後は年1回事務局から成果等を報告していただいている。今事務局がお話されましたとおり、8月6日までに次回の会議を開催される予定になっているので、今までと違う形で活発にですね、皆様からご意見お伺いさせていただけるかと思えますし、先ほどのお話があったように、今後どういった方がいいかということを含めて、ぜひ皆さんに、またご意見をどんどんいただいたらいいかと思えますので、よろしく願いいたしたいと思えます。そうしましたら一応以上で、案件はすべて終了いたしました。どうもご協力ありがとうございました。これを持ちまして本会議を終了したいと思えます。どうもありがとうございました。